

区政推進基金（市民活動団体支援型）寄附者のみなさまへ

みなさまの寄附金で大阪を元気にする 9事業を支援しました！

～令和3年度大阪市市民活動推進助成事業～

このたびは、区政推進基金（市民活動団体支援型）へご寄附をいただき、ありがとうございました。

みなさまからいただいた寄附金を活用して、令和3年度は9つの事業に対して助成を行いました。

事業を実施した団体より、報告が寄せられましたのでご紹介いたします。

今後も、市民活動の推進のため、みなさまのあたたかいご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

<令和3年度(令和3年4月1日～令和4年3月31日)の寄附について>

寄附金額：7,526,582円

寄附件数：27件

★支援者のみなさま(社名50音順・敬称略)

愛眼株式会社、イオンリテール株式会社、株式会社SIM、大阪シティ信用金庫、
大阪市民共済生活協同組合、大阪信用金庫、大阪府民共済生活協同組合、
株式会社クーバル、クジラ株式会社、株式会社光洋、株式会社ココロ、
株式会社五大、宗教法人真如苑、センコー株式会社、株式会社Dreams、
一般社団法人日本姿勢予防医学協会、株式会社ハヤシコーポレーション、
株式会社一二三工業所、株式会社フォーシックス、株式会社フォーユーカンパニー、
富士フィルムシステムサービス株式会社、株式会社宮田運輸、
ライフ・カイロプラクティックラボ、リタワークス株式会社、株式会社LIG、株式会社良心塾

☆いろいろあります♪寄附のしくみ

市民活動のためのクリック募金



事業の趣旨にご賛同いただいた協賛企業等のバナーをクリックすることで、協賛企業からクリック数に応じた金額を大阪市に寄附いただき、大阪市市民活動推進助成事業へ活用するシステムです。

クリックした人に金銭的負担がなく、市民活動を応援することができます。

【大阪市市民活動総合ポータルサイト】

<https://kyodo-portal.city.osaka.jp/click/>



ふるさと寄附金



生まれ育った場所など、一人ひとりが選ぶ場所を「ふるさと」として応援するもので、寄附することにより、その年分の所得税及び翌年度分の個人市・府民税から、支払った寄附金額に応じて一定額を控除する制度であり、「ふるさと」の自治体への貢献の気持ちを表す市民参加のスタイルです。

すきやねん大阪WAON



イオングループの企業が発行する、地域貢献型のご当地WAON(電子マネー)カードの大阪市版です。このカードを利用いただくことで、その利用金額の一部を大阪市に寄附いただき、大阪市市民活動推進助成事業へ活用するしくみです。

事業名：登校拒否・不登校、社会的ひきこもりからの回復・自立への援助

団体名：NPO 法人おおさか教育相談研究所

事業HP等のURL：<https://kyoiku-sodan.org>

助成額：1,000,000 円

【事業の目的】



小・中学校の児童生徒の不登校数は8年間連続で増加し続け、全国で19万6,127人。大阪府で4,675人となっています。この数以外にコロナ感染を避けるための30日以上出席しなかった小中学生は全国で2万人を超えています。また社会的ひきこもり数は全国で115万人、大阪府では4万人を超えています。

私たちの事業の目的は「学校に行きたくてもいけない」「働きたくても外に出ることができない」という子どもや若者が、自分の力で立ち上がり「豊かな学校生活」や「社会生活の喜び」を感じてもらうことにあります。

【事業の紹介】

事業名	開催日	場所	相談件数や参加者数
相談事業	日曜・休日を除く毎日	おおさか教育相談研究所 相談室	面談による 211件 電話による 312件 合計 523件
緊急無料 電話相談	8月28・29日の2日間	おおさか教育相談研究所 相談室	電話による無料相談 2日間で27件
講演と 無料相談会	10月10日	山本コミュニティセンター	参加者66人 交流会31人 相談5件
	11月14日	西区区民センター	参加者37人 交流会16人 相談0件
	12月5日	旭区区民センター	参加者21人 交流会16人 相談4件
	1月16日	大正晴ればれ	参加者22人(交流会中止) 相談4件
	1月23日	東住吉会館	参加者33人 交流会13人 相談4件
学校教職員・ 支援者との 研修	6月26日	寝屋川市教育文化センター	参加者約25人(オンライン含め)
	7月29日	茨木市公立小学校	参加者28人
	11月25日	大阪市立愛光会館	参加者35人
	1月26日	大阪府市役所	参加者35人
家族交流会	7月10日	教育会館(たかつガーデン)	参加者20人
	11月22日	教育会館(たかつガーデン)	参加者15人
	1月22日	教育会館(たかつガーデン)	参加者10人

* 新型コロナの子どもへの感染が拡大していく中、今年度の学習支援希望者はありませんでした。

* 新型コロナ感染防止のため9月8日・3月26日の家族交流会は中止及び延期としました。

【事業実施の成果】

2020年度に引き続き2度目の「コロナ禍の苦しさ一人で悩まないで！不登校・登校拒否緊急無料電話相談」にとりくみしました。長期化するコロナ禍の中、一昨年はなかった「子どもが『死にたい』と言う」相談が、小中高生20件の相談のうち4件あり、子どもが親に「死のうと思ったりする」「死んだ方がマシ」「死にたい」と訴えていました。この声を「親と子、そして学校の緊急事態である」と、記者会見で多くの報道陣に伝えました。また、大阪府内全域の教育委員会に「緊急要望書」を提出し、大阪府教委・大阪市教委のみなさんには直接面談していただき、緊急性をお伝えしました。その後マスコミ関係の取材も受け、記事として発信していただいています。



「講演と無料個別相談会」は昨年度で8回目のとりくみとなりました。大阪市内は4か所とも大阪市教育局と大阪市社会福祉協議会の後援を受け、多くの市民のみなさんに開催への協力させていただきました。

家族交流会では、社会的ひきこもりの当事者・家族・相談員で2年間にわたって検討してきた冊子「安心のくらしと希望あるひとり立ちのために」が完成しました。1人で悩んでいるみなさんに1冊でも多く広げていきたいと思えます。



【今後の展望と課題】

多忙な教育現場との交流や研修の企画について悩んでいましたが、次々に学校の現場や不登校支援員のみなさんからの要請があり、共に学び合うことができました。今年もすでに小学校から高校の研修を含め地域の「講演と無料相談会」予定が入っています。今後もいろいろな形での学校現場との交流・研修を企画していきます。

今年度の重点的課題のひとつは、NPO活動を支える財政的基盤確立です。「寄付依頼の工夫、賛助会員の継続・拡大、助成金の獲得、冊子の普及」など、知恵を出し合い相談事業と財政活動の二本柱に相談員みんなできとりにくんでいるところです。

事業名：支援を要する学生・生徒のインターンシップ事業

団体名：特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク
 事業HP等のURL：<https://www.workwith.or.jp/>

助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

一般高校・専修学校・大学など支援学校以外の学校に在籍する何らかの支援を要する（障がい者手帳の所持不要）学生・生徒に対し、在学中に企業でインターンシップを行うことにより就業のイメージを作り自己の課題と強みを見出す機会を提供する。インターンシップを通じ働くことを身近にとらえ、卒業後の社会参加に対するハードルを下げ、職業準備性を高める。企業体験の前後には研修会を開催し、各自の就業機会の可能性を探る。



企業で頑張るインターンシップ中の学生

【事業の紹介】

事業内容	開催日	場所	参加者数
就労準備セミナー ・履歴書・自己PR書作成、面接の練習 ・スキルチェック ・職場見学会（リモート見学会） ・学生インターンシップ報告会	2021年 6～7月 7～9月 6月16日 1月18日	テラト・オイス平野 テラト・オイス平野 (株)ニッセイ・ニュークリエーション エルおおさか	1名 11名 17名 コロナ禍で中止
学生インターンシップ登録会	7月12日 8月24日	エルおおさか エルおおさか	学生27名 学生22名
職場実習（2～5日間）	8～3月	16社と2事業所	学生32名
個別カウンセリングの実施	6～3月	当法人事務所・大阪市職業リハビリテーションセンター	学生53名 学校3校 (延56回)
教職員、保護者向け視察研修 (フィールドワーク)	11月25日	三菱UFJビズィン パートナー タケノコライズ 摂津 The Links、NTT ルネオ	15名
教職員、保護者向けセミナー (基本セミナー)	3月18日	エルおおさか	41名



教職員向け視察研修



基本セミナー

【事業実施の成果】

＜学生インターンシップ登録会・職場実習＞

- 登録会を2回実施し49名（目標30名）の参加があった。特に令和2年度参加のなかった一般高校から10名の希望があり、当事業の必要度を再認識した。
- 職場実習は、32名（目標30名）実施。4名の内定者が出た。企業その他、訓練機関でも実施した。なお、職場実習を調整したが11名の辞退者が出た（精神的、体験的な社会参加の準備不足）。
- 参加した学生は、就職直前の状況の人から学校以外の環境は全く知らない学生までと状況は様々で、今後実習先のマッチングに更なる工夫が必要である。

＜企業見学会＞

- コロナ禍に配慮してリモート見学会を開催

＜就職準備セミナー＞

- 新規事業として「スキルチェック」を実施。11名の参加があり、実習先企業と学生のマッチング精度を高めた。

＜個別カウンセリングの実施＞

- 学生インターンシップの職場実習の希望者には、個別カウンセリングを条件とした。学生53名の参加があり、個別カウンセリングを軸に当事業を組み立て実施した結果、学校の進路指導やキャリア支援と状況共有し連携した取り組みとなった。その結果、就職内定者の卒業後のフォロー体制の構築、就職未内定者の支援機関への橋渡しなどを行うことができ、卒業後の支援体制を構築する機会となった。

【今後の展望と課題】

- 1) 教育機関への周知：メインの「学生インターンシップ登録会・職場実習」には多くの参加を得た。しかし、その周辺の準備セミナー、出前講座、教職員保護者向けセミナーの参加はそれほどの参加が得られていない。メイン事業を保管するものであるため、一体的に理解してもらう必要がある。令和4年度は、インターンシップの概要説明会として事業全体を学校に周知すること企画している。
- 2) インターンシップ（職場実習）決定後の11名の辞退者：大学生は単位の未取得や生活面の課題、高校生は社会経験の少なさからくる「不安」等多様である。人との関係を含む様々な社会経験を積むこと、早期のキャリア教育、気楽に職場体験のできる機会等の必要性を痛感した。そこで、令和4年度は、体験型職場見学会、義務教育からのキャリア教育と題して、小中学校の支援学級在籍生徒へのリモート見学会を企画している。
- 3) 不登校支援団体等との連携：学校卒業までに進路選択を行えず、在宅になっている方も少なくない。学齢期に限らず、働く喜びや社会とのつながりを支援できるよう、不登校支援団体をはじめとした各種団体と連携し掘り起こしを行う必要性を感じている。

事業名：障がい児の予防歯科事業「すまいる for kids」

団体名： 特定非営利法人関西ウェルビーイングクラブ

事業HP等のURL：[https:// www.kansai-wellbeing.com/](https://www.kansai-wellbeing.com/)

助成額：376,000円

【事業の目的】

障がい児の予防歯科の普及をめざしています。障がい児に対する歯科治療は、健常児と違い困難な行為です。障がい児がむし歯に罹患すると抑制具で身体を固定したり、時には全身麻酔下において歯科治療を受けなければなりません。

しかし、むし歯は予防できる疾患です。適切なセルフケアと歯科医院での定期的なケア(フッ化物塗布等)を受けることで、近年、健常者のむし歯は減少しています。

一方、障がい児においてこの予防法はまだ普及、実践されていません。

そこで私たちは障がい児に予防歯科を広めていきたいと考え、この事業を実践しています。



【事業の紹介】

1. 健康教室の開催

『今日からできますむし歯予防』

(社)ライフサポート協会との共同開催オンラインとリアルハイブリット開催

《日時:R3年6月25日,場所:住吉総合福祉センター10:00~12:00》

《参加者:保護者、支援者33人》

保護者向けオンラインセミナー

『障がいがある子の保護者向け今日から実践できる楽しいむし歯予防』

第1回『今日から実践できる虫歯予防』

第2回『お家で簡単にできるフッ素の使い方』

第3回『虫歯になりにくいおやつの食べ方・選び方』

《日時:R3年10月21日,11月18日,12月16日,10:30~11:30》

《場所:zoom》《参加者:延べ15人》

2. 歯科医療者向け研修会開催

『明日から役立つ!障がい児者への予防歯科セミナー』

《日時:R3年11月28日,R4年2月27日10:00~13:00》《場所:エル大阪&zoom》

《参加者:38人》

『一般開業医でもできる障がい児者へのアプローチ基礎編』、『応用編』

『予防歯科を行う上で必要な笑顔溢れる職場づくり』

『臨床現場における障がい児者への受診トレーニング』

3. 受診トレーニング

《日時:休診日》

《場所:文元歯科医院12回、森岡歯科医院8回》《参加者:自閉症、発達障がい児 延べ15人》



【事業実施の成果】

1. 健康教室

多数参加していただき、福祉施設での口腔ケアのニーズを感じ取りました。

福祉施設でのフッ化物洗口を始めることになりました。

保護者向けオンラインセミナー

自宅でフッ化物洗口を始めたとお声をいただきました。

セミナーを動画配信して欲しいという意見をいただきました。

2. 歯科医療者向け研修会開催

オンライン開催により、全国各地からの参加者の受講があり、交流が深まりました。

患者さん家族の協力により、臨床風景が動画撮影されており、臨床現場にいるようでより理解が深まったと参加者よりお声をいただきました。

3. 受診トレーニング

障がい当事者のトレーニングの成果が見られ、保護者から歯医者に行くのを楽しみにしているとお声を頂きました。

参加された保護者からの障がい児者の紹介参加もありました。事業の好評価をいただけたと思っております。

他院の歯科医師から見学を希望されました。この事業が広がっていく希望が見えました。

中間報告会で自宅にて学習できる動画作成のアドバイスをいただきました。

当法人のホームページに掲載しております。ぜひ、ご覧ください。今後もコンテンツを増やしていく予定です。



【今後の展望と課題】

新型コロナウイルス感染症により哲学対話は次年度に延期になりましたが、それ以外の事業は予定どおり開催されました。歯科医院での受診トレーニングにおいても、東成区と城東区でも12回の開催計画が参加者のニーズにより19回開催できました。

歯科医療者セミナーも昨年度に引き続き開催することができ、ネットワーク構築の布石を打つことができました。

障がい児の保護者を対象としたムシ歯予防教室も3回計画通り開催できました。ただ、参加人数が予想していたより少なく、この事業をもっと周知する必要があります。この事業の骨格になるであろう歯科受診トレーニングが形になったので、次年度に向けて、賛同してくれる歯科医院を増やすことと、保護者への周知が課題となります。

事業名: こどもプラザ

団体名: 特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会

事業HP等のURL: <http://www.interpeople.or.jp>

助成額: 812,000 円

【事業の目的】



外国にルーツを持つ子どもたち、とくに Newcomer の子どもに対する日本語で学ぶ学習の支援と、地域コミュニティや学校に馴染めない子どもに対する居場所を確保する「こどもプラザ」事業を立ち上げ、困難に直面している子どもたちの支援を行っています。また、保護者が学校の通知等を理解できない問題を解決するために、保護者のサポートも同時に行っています。この事業は、大阪市内を中心に必要と思われる地域に拠点を立ち上げ、順次拡大して行く予定です。目標は、多様化するグローバル社会の担い手として子どもたちを育成することです。

【事業の紹介】

運営日時: 毎週水曜日 17:00 ~ 19:00

運営場所: 大阪市東住吉区杭全 1-15-18 大西ビル 3 階「会議室」

募集人員: 10 名程度を予定 (現在 6 名在籍)

10 名を超える場合は週 2 日の運営も予定しています。

対象者 : 大阪市在住の外国にルーツを持つ子どもたち (Newcomer)

主に小学生が対象。

現在は保護者も同時に日本語を学び、生活上の悩みなどの相談も受けています。

参加費 : 無料

(注) 母親の日本語講習についても同様に無料。

運営内容

【こども】

- 1) 正しい日本語習得の支援 (元教員等のボランティアによる学習支援。)
- 2) 宿題の指導 (学校の宿題をサポートします。)
- 3) こどもとの心のふれあいタイム (日本の習慣・文化を教える目的で実施)

【保護者】

- 1) こどもの学校の通知、近隣の回覧板、行政の案内等を、通訳の解説を交えながら日本語を学んでいます。
- 2) 保護者が抱えている問題や悩みを気軽に相談できる「場」としてしています。

【事業実施の成果】

【令和3年度事業実施の成果】

1) 実施回数	こどもの日本語習得実施回数	47回
	保護者の日本語習得実施回数	47回
2) 参加者数	こどもの延べ参加人数	208人
	保護者(主に母親)の延べ参加人数	172人
	ボランティア指導員延べ人数	212人

3) ZOOMでの開催:

昨年は、まん延防止等重点措置の発出により、47回開催中27回がZOOMでの開催となりました。ZOOMの特性を活かし、中国に一時帰国した子どもたちも日本語学習に参加することができました。

【参加者(子ども・母親)、ボランティアの声】

(こどもたちの声)

- ・一番楽しい場所です。
- ・何でも聞いてくれる先生と話すのが好きです。
- ・遊びタイムのけん玉遊びが大好きです。しかしZOOMが多いのでつまらなかったです。等

(母親の声)

- ・学校の通知を解りやすく説明していただきました。
- ・日本の習慣・行事等を楽しく説明してくれるので、自分も積極的に参加してみようと思いました。
- ・家族全員で学べるので大変ありがたいです。

(ボランティアの声)

- ・楽しく遊びながら学ぶ。これは大切と思います。
- ・寄り添うというのは難しいが、一生懸命説明すると笑顔で頷いてくれる。感動します。
- ・子どもをどのようにサポートすべきか最初は戸惑いましたが、今は子どもに会うのが楽しみです。



【今後の展望と課題】

1. 大阪市内を中心に必要と思われる地域に、こどもプラザのノウハウを活かし、他の事業者と連携を強化することで、こども支援の拠点の拡大を目指します。
2. 地域の商店街、福祉協議会等との連携、行政、防災関係者等と連携することで、在留外国人の日本での生活を支援します。また、「やさしい日本語から、つながろう。」を広める運動の促進することで多文化共生のプラットフォームの基盤を構築し、地域振興に寄与することを目指します。
3. コロナ禍の影響下、地域社会との連携が難しい状況にあります。地域社会とりわけ町内会等で主催している「祭り」の開催が出来ない状況下にあるため、町内会との連携及び地域交流そのものが停滞しているのが課題となっています。

事業名：ゼロ会議 ～2021 年大阪府児童虐待死ゼロ～

団体名：ゼロ会議運営委員会

事業HP等のURL：<https://www.ikuhaku.com/zero/>

助成額：778,000円

【事業の目的】



ゼロ会議は 2021 年に、大阪府警発表の児童虐待死亡件数を 0 件にすることが目的の民間運動です。2019 年～21 年までの 3 ヶ月に 1 度、府民を対象としたイベントゼロ会議を開催。参加者は無料で講習を受け抑止の知識を習得して頂きます。身近な親をサポートできる民間人を増やすことで、虐待死まで至るケースを抑止します。終えメンバーは約 5,000 人を超えています。

【事業の紹介】

ゼロ会議の開催（年 4 回） 2 回開催

7 月配信 事前収録、YouTube ライブ配信に変更

- ・WEB チラシの作成、メンバーによる告知
- ・SNS での告知 Facebook や公式 LINE による案内
- ・浪速区と連携での告知

9 月開催 参加人数：78 名

- ・WEB チラシの作成、メンバーによる告知
- ・SNS での告知 Facebook や公式 LINE による案内

12 月開催 参加人数：82 名

- ・WEB チラシの作成、メンバーによる告知
- ・SNS での告知 Facebook や公式 LINE による案内

音楽イベント等に参加

- ・9 月開催 MUSIC CIRCUS へ参加中止
- ・11 月開催予定 Rocks For Chile（ロックスフォーチル）への参加

年間を通して子どもや親が泊まることのできる場所の運営

- ・開催なし



【事業実施の成果】

新型コロナウイルス感染の影響で、これまでと同様の事業実施や継続が難しい状況が続いていますが、2021年4月以降はオンラインでの対応できるように袋瀬に変更や積極的な対応を行い大阪市だけでなく、大阪府や県外から参加してもらうことも可能なり、より多くの人に伝えることが出来たと思います。

また、ライブ配信と事前に収録した映像を使ったハイブリッド配信という新しい企画にもチャレンジすることが出来ました。事前収録では大阪市浪速区から浪速区長と子育て支援課課長などにも参加していただき、このプロジェクトに対してどんな取組みが出来るかを話すことができ、市民へも届けることが出来たと思います。



【今後の展望と課題】

ゼロ会議の開催方法の変更

セミナー形式だけでなく、オンラインやハイブリッド配信を行うことで事業が継続できたことで、これまでより幅広い年齢層へのアプローチが出来ました。関西大学での特別講座や大学生から活動に参加したいとの連絡があり、若い世代での認知度が広がり、これまでは口コミや紹介での広がりが大きかったが、SNSなどを活用しもっと幅広い年齢層への認知度を上げられるように、もっとSNS等の告知や案内をもっと強化して、認知度の裾野を広げる作業を強化していきたいと考えています。

音楽イベント等に参加

当初計画していたイベントの他にも主演依頼があり、認知が上がってきたが、新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが開催されない事がつづき、直前での変更などにも対応できるように準備を事前に行う対策をとる必要があったと思います。

今後も音楽イベントや地域のイベントへの出演を継続して参加していき、取組の内容をもっとオープンで身近なものとして考えられるような文化を広げていきたいと考えています。

年間を通して子どもや親が泊まることのできる場所の運営

SNSを活用して対応する取組ができたので、今までの広がりだけでなく広範囲の方と繋がる事が出来たと感じています。

緊急事態宣言や蔓延防止対策の影響で、人と人が繋がる場が減少。今後はオンラインでも繋がるような方法を検討し対策して、今後もオンライン等でも繋がれるような体制を整えていきたいと考えています。

事業名：「団地の団築食堂（だんだん）」

団体名：団地の寺子屋

URL：<https://www.facebook.com/danntinoterakoya/>

助成額：18,000 円

【事業の目的】

森之宮地域の地域課題は次の5点だ。

1. 団地の特性として、移り住んできた人たちの集まりのため住民間の地縁が薄く子育て世代は転入と転出の繰り返しになっている。
2. 高齢者世代の転出は少なく転入は多い。
3. 地域のコミュニティ力が弱く、高齢者の孤立死やワンオペ母子の孤立が多い。
4. 共働きによる子どもの孤立が多い。
5. 高齢化が進み地域活動の担い手の発掘・育成が困難。

これらの課題解決のため、団地集会所を居場所とした「だんだん食堂」活動に取り組む。

【事業の紹介】

○平成31年度事業実績（地域食堂開催場所は森之宮第2団地6号棟集会所）

- | | | |
|------|--------|-----|
| 第1回 | 5月24日 | 32名 |
| 第2回 | 6月14日 | 25名 |
| 第3回 | 9月13日 | 45名 |
| 第4回 | 10月10日 | 32名 |
| 第5回 | 10月25日 | 48名 |
| 第6回 | 11月8日 | 27名 |
| 第7回 | 12月20日 | 36名 |
| 第8回 | 1月10日 | 25名 |
| 第9回 | 2月20日 | 32名 |
| 第10回 | 3月13日 | 15名 |
| 第11回 | 3月20日 | 16名 |
| 第12回 | 3月27日 | 15名 |



7月17日 市社協「子どもの居場所サポート講座
・衛生講習会」3名

11月1日 広報講習会① 3名

12月13日 広報講習会② 3名

○令和2年度事業実績（食堂事業は自粛、
研修事業実施）

2021年3月19日（金）第1回「広報勉強会」3名

2021年3月26日（金）第2回「広報勉強会」3名

2021年3月29日（月）第3回「広報勉強会」4名

○令和3年度事業実績（食堂事業は自粛、研修事業実施）

2022年1月17日（金）第1回「食堂運営研修会」4名

2022年1月31日（金）第2回「食堂運営研修会」3名

2022年2月14日（金）第3回「食堂運営研修会」3名

2022年3月14日（金）第4回「食堂運営研修会」6名



【事業実施の成果】

1. 【事業の計画内容】

- (1) 食堂事業：年間 14 回（定例毎月 1 回×12 カ月、子ども会 1 回、クリスマス会 1 回 計 14 回）開催。コロナ禍を考慮して調理の簡単な軽食とする。
- (2) 研修事業：年間 4 回開催（食堂事業を円滑に実施していくうえで世話人として必要な項目について、運営にあたる子育てママ達でテーマと講師を自主的に企画し 4 回の連続研修を実施する）
- (3) コロナ禍により食堂事業の実施に支障が出る場合、食堂事業の目的である「一緒に食卓を囲むことで、子育て世代・高齢者世代・乳幼児を含めた多世代間の交流を深め、地域の中に『幼老共生ケアと地域大家族』の意識の高揚を図る」を補完するような活動を子育て世代の若いママ・パパたちを中心に企画・立案し事業実施にあたる。

2. 【上半期の事業実績】

- (1) 団地集会所がコロナ禍でロックアウトのため立ち入れず、食堂事業は事実上中止。子育てママ達は食堂事業を補完する活動をさぐるミーティングと自分たちの研修事業のテーマを探るミーティングに取り組んだ
- (2) 外部団体との協働として、令和 2 年度に引き続き「地域子ども支援ネットワーク事業（大阪市社会福祉協議会）」に協力し、毎月 1 回の子ども支援物資の搬入・配布活動を実施した。
- (3) SNS の利用が一時話題になったが、世話人会としては団地内公園でのママ友同士の親しい井戸端会議や自宅での対面の打ち合わせも重視している。
- (4) 頻繁な打ち合わせの成果として、任意団体「だんだん食堂」が予定より早く発足し「こどもひろば」企画に応募。

3. 【下半期の事業実績】

- (1) 食堂事業：新型コロナウイルス感染症まん延等防止重点措置が発表されるなどで食堂事業は事実上中止。
- (2) 研修事業：1・2・3 月期の感染症がやや下火になった時期を縫って、中間報告会での審査委員アドバイスを受けて、研修内容を見直し組織の運営や資金調達を学ぶ研修会（食堂運営研修会）を専門家に頼んで連続 4 回実施。
- (3) 食堂事業を補完する活動：
 - ①「地域子ども支援ネットワーク事業（大阪市社会福祉協議会）の子ども支援物資配布活動に協力（団地の寺子屋子育てサロン活動と協働：毎月 1 回）。
 - ②地域活動への SNS の活用：地域スマホ教室開催（団地の寺子屋本体活動と協働）
 - ③写真で見る 3 年前の団地の寺子屋地域活動（幼老共生ケアをテーマに「だんだん食堂」活動と「保育園との多世代交流活動」を中心にフェイスブック記事の写真で振り返った。
 - ④ICT などを使った新しいコミュニケーション手段へ地域の人々や子育てママ達の目が向き、NHK 歳末助け合いの「こどもひろば事業」に参加できたので ICT 機材も整備できた。

【今後の展望と課題】（今後のスケジュールや課題と感じていることなど）

1. 【子育てママを中心とした組織の危うさ】子育てママ達の大多数が共稼ぎ世帯で、多くが 1 年間の育休が明けるとすぐに職場復帰する。子育てママ達のライフサイクルに合わせた出入り自由な地域活動の柔軟な組織作りが課題。
2. 【土日・祝祭日中心の活動形態の大切さ】 土日・祝祭日中心の出入り自由な地域活動であれば、復職したママだけでなく、子育てパパたちも地域活動に参加しやすくなる。
3. 【子どもを中心とした活動で地域の多世代交流を図る】幼老共生ケア・地域大家族・持続可能な地域活動の原点に戻って、子ども中心の多世代交流事業を企画する。（まずは定例のお誕生会でおしゃべり会、だんだんと食堂事業へ）

▲ 3 年間の本事業を振り返ると、1 年目は食堂事業と研修事業を予定通り実施できたが、2・3 年目はコロナ禍のため「食堂事業」は自粛となり、「研修事業」だけの片肺事業となった。

特に 3 年目はコロナ禍が強く予測されたのだから中心とする事業を変更すべきだったと反省が残る。今後の事業展望ではコロナ禍の地域活動への影響を視野に、「食堂事業」と「多世代交流事業」のバランスをとりながら、自立した地域福祉団体「だんだん食堂・多世代交流サロン（だんだんサロン）」として持続可能な地域活動へ取り組みを更に進める。



事業名：放課後スペース viva!しゅくだいカフェ

団体名：放課後スペース viva!運営委員会

事業HP等のURL：<https://syukudai-cafe.net>

助成額：982,000円

【事業の目的】



放課後のこどもの居場所不足や、地域とのつながりの欠如などの課題解消のために、月～金曜日の15～19時に子ども達に対し完全無料で居場所を提供する。

子育て世帯の「家族だんらん（夜の2時間）」を確保

放課後、子どもたちが安全に安心して学べる、遊べる居場所づくり

課題やハンデを持つ子供を、自然なコミュニケーションの中でサポートする

以上3つの目的を達成するために活動している。

【事業の紹介】

- ・大阪市東淀川区で、区内の小学生、中学生を対象とした居場所を無料で開放し、大人の見守りがある中で、必ず宿題を終わらせる。
- ・活動日は、平日の15-19時で、常に居場所を開放している。
- ・448名の子どもたちが登録・利用
- ・1日の平均利用は夏季20名、冬季7.3名程度
- ・月額サポーターによる寄付金額、平均で85,000円。その金額で運営している。
- ・このような子どものための第3の居場所があることを認知してもらうための発信を強化する。
- ・居場所としての質（遊び場としての楽しさ・居心地の良さなど）を高めるために、子どもたち自身の意見を聞きながら、「場の改善のための試行錯誤」を行う。
- ・運営委員5名、スタッフ7名、ボランティア59名、月額サポーター48名で運営している。
- ・社会人や大学生、高校生などの様々な立場のボランティアスタッフの方が、子どもたちと関わることで、子どもたちの視野が広がったり、家庭や学校などでおきた問題を相談できる相手の選択肢を増やしている。

【事業実施の成果】

事業実施日は、お盆休業（8/9～8/13）、年末（12/27～1/4）以外の平日は毎日活動いたしました。

ボランティア従事者数は、時間帯に責任を持ってワンオペ運営をすることができるスタッフ9名、ボランティア先生が59名です。今では、448名の子どもたちが利用し、平均で12名ほどの利用がありました。

申請時に記載しました、放課後に安全な場所があることで、保護者がフルタイムで安心して仕事絵をできることや、子どもを取り巻く環境を熱くするという目的に関しましては、普段の保護者の方々とのコミュニケーション、子どもたちの反応などで考えましても、達成できたと考えられます。

この活動のニーズは、子育て世帯の、子どもを預かっておいてほしい、また、シングルマザーの世帯には、「子どもの宿題をみておいて欲しい」と言うものでした。これは、隣接している塾に通っている小学生の保護者の方から、お迎えの際に直接お聞きしました。

また、校区外ではありますが、保護者の方より直接ご連絡をいただき、息子が不登校のため、学校には行きたがらない。ただ、他の小学生とコミュニケーションをとって欲しいとの要望があり、その子に関しては、運営委員内で密にコミュニケーションをとりながら、あくまで自然なコミュニケーションの中でサポートするということを行い、結果として不登校が少しずつ会場されるといった事例もありました。

【今後の展望と課題】

- ・安定したボランティアスタッフの確保（現ボランティアスタッフは大学生のため）
- ・月額サポーターや助成金などの安定した財源の確保

事業名：子どものチカラで大阪を防災力日本一に！
「U15のための防災カレッジ」

団体名： ママコミュ！ドットコム
事業HP等のURL：<https://mamacomu.com/>

助成額：1,000,000円

【事業の目的】

子どものポテンシャルを生かした防災教育を通して災害に強い「防災力日本一の大阪」を実現する。

【事業の構成】

- 1 「U15のための防災カレッジ」
子どもの年齢や防災への関心度、理解度に
応じた講座。
- 2 大阪ジュニア防災検定【新規】
防災の知識×地域性を総合判定する全国初
の防災検定。
- 3 防災専門家会議【新規】
防災や地域活動の専門家、実践者による戦略会議。
- 4 防災コミュニティの運営 LINE 公式アカウントによる配信。



【事業の紹介】

- 1 「U15のための防災カレッジ」参加者総数 159組 376名
子どもの年齢や防災への関心、理解度に依りて自由に組み合わせて受講できる全 24 講座
(1) 会場参加 (2) ライブ配信 (zoom) (3) 動画学習 (eラーニング) に対応
「いつでも、どこでも、何度でも」を可能にした防災学習★ベーシック (防災の基礎×地域性×防災
ゲーム) 82組 184名
(1) 6/27(日) 災害を知って正しく備えよう+いつ・どこ防災ゲーム (オリジナル教材)
(2) 7/11(日) 知恵を集めてピンチを乗り切ろう+ナマズの学校
(3) 8/8(日) もしも学校が避難所になったら+避難所運営ゲーム
★アドバンス (防災の応用力、発信力、創造力を磨く) 48組 119名
(1) 7/11(日) ユニバーサルデザインで伝えよう+防災啓発ポスターづくり
(2) 8/8(日) LINE スタンプをつくって広めよう+スタンプ作成
(3) 8/20(日) 気象災害を予測しよう+天気図の読解、台風の進路予測
(4) 10/30(土) 世界の仲間とつながろう+ドイツ青少年消防団との交流
★ユニバーサルキッチン (食の多様性×防災) 22組 58名
(1) 6/13(日) アルファ化米でいなり寿司+梅雨時の食品衛生、食物アレルギー対応
(2) 8/29(日) アルファ化米でパエリア+夏バテ、食欲のない時の工夫、熱中症対策
(3) 1/16(日) アルファ化米でお団子いろいろ+調理器具や水を節約する工夫、屋外調理の工夫
★プロフェッショナル (防災の最前線で働くプロに会いに行くスタディツアー) 7組 15名
(1) 7/30(金) 大阪市特別救助隊訓練見学【中止】
(2) 8/15(日) 両川口大地震津浪記石碑保存会訪問【中止】
(3) 3/25(金) 大阪市住之江抽水所【中止】
(4) 8/2(月) 大阪を水害から守るプロフェッショナル@津波高潮ステーションと安治川水門
- 2 「大阪防災検定」12/12(日)Web 実施、受験者 45名、平均点 59点、満点なし。
- 3 防災専門家会議 3回実施。事業の持続発展、全国展開を視野に入れた戦略会議。
- 4 防災コミュニティの運営 登録者 131名に配信 20件

【事業実施の成果】

1 防災教育の必要性の浸透

市の助成金をいただいたことで団体や活動の認知度、信頼度が大きく向上しました。保護者や教員、地域防災の推進者など、子どもの教育に携わる多様な参加が増え、様々な活動が広がっています。

2 子ども・保護者の意識・行動の変容

講座内外で子どもたちと積極的にコミュニケーションを図り、関心や理解の把握に努めました。結果、子どもたちとの関係性も強まり、リピート率の上昇や保護者からのフィードバックの増加につながりました。防災を家族内で話題にすることが増えたり、学校の友達や先生に防災の話をしたり、「防災の発信者」としての自発的な活動につながっています。

3 コロナ禍でも持続可能な事業スキームの構築

昨年来コロナ禍での事業実施となり、会場使用や訪問受入の中止が相次ぎました。一方で zoom ライブ配信やオンデマンド受講を拡大し、防災学スタイルの多様化と選択肢の拡大に取り組みました。

4 「つながれば強くなる」

3年をかけて多くの協働の機会を呼び込みました。防災研究者、地域防災の推進者など全国の「防災仲間」との連携が強まり、本事業そのものが多彩なアプローチから防災への理解を深める独自の活動として存在意義を高めることにつながりました。

5 社会の認知の向上が評価につながる

テレビ、新聞各社からの取材により、事業への注目度が大きく向上しました。加えて大阪市や博報堂教育財団から表彰を受けたことで信頼が大きく高まりました。本事業を機に全国規模の防災ネットワークや万博関連の講演会などの登壇依頼が増え、自分たちの声で発信する機会をいただきました。

本事業への参加をきっかけに区や聴覚障がい児・児童発達支援施設から講師依頼を受けたり、企業や教育機関から事業連携のオファーも数多くいただくことができました。

6 事業の担い手の開拓

関西大学、立命館大学、大阪商業大学の学生インターン受入や卒論作成への協力、社会活動の実例報告などの機会を通じて、今後、事業の担い手として期待できる学生の人材発掘や防災活動への参画の促進に寄与しました。



【今後の展望と課題】

1 連携の強化から協働へ

本事業をきっかけに市内各区各地域で子どもを対象とした防災教育の動きが活発化し、当団体の役割が発揮できる場が増えました。多様なセクターやプレイヤーとの協働の可能性を広げていきます。

2 事業手法の多様化

コロナ禍の影響を最小限にするため、屋外での開催など感染防止策を講じた参集型の再開と並行してリモート受講の機会にも引き続き注力します。障がいや生きづらさを抱える子どもたちがアプローチしやすい環境の一つとして新たにメタバースの活用をめざし、検討を重ねています。

3 防災の周辺領域との親和性拡大

SDGs の各ゴールや多様な地域課題は防災に深く関連するテーマと位置づけ、災害対応にとどまらない広い視野と多様なアプローチにより「防災の周辺領域」を広く捉えたインクルーシブな防災教育の先行事例として存在感を発揮したいと考えています。

4 防災で世界に貢献

グローバルの4回目として実施した大阪市とドイツ・ハンブルク市のユースによる交流と防災学習を核にした防災姉妹都市の関係構築の取り組みをこのほど内閣府が募集した「仙台防災枠組2015-2030 グッドプラクティス」に応募。国内の先進事例として採択され、国連に提出されることをめざしています。また、2025年の大阪関西万博を最初のゴールに置き、これまで本事業で防災を学んだ子どもたちが海外からのゲストを迎え、人々の安全確保に貢献する機会を創出できるよう、協会に提案しています。

事業名：地域移行支援プログラム

団体名：NPO 法人・ムーブメント

ホームページ等 URL：<https://www.npomovement2010.com/>

助成額：8,000円



【事業の目的】

施設や実家に住んでいる重度の障がい当事者の方に地域で安心して暮らしていただけることを伝え、地域の方には障がい者と共に暮らしていただける社会を誰もが住みやすい地域だということを知ってもらうきっかけとしてこの事業を始めた

【事業の紹介】

4月10日(土曜日) 11時~16時 当事者7名 ボランティア5名

9月11日(土曜日) 11時~16時 当事者7名 ボランティア0名

【事業実施の成果】

ポッチャを通じて色々な人と関わることで、まず地域にでることに慣れてもらい、楽しみを知ってもらうことを優先し今年度は事業を行った。

参加者からはもっと回数を増やしてほしい、との声をたくさんいただいたのでもっと回数が増やせるように努力すべきだったと反省している。

ボランティアからは色々な当事者と関わることができ、よかった、との声をもらった。

【今後の展望と課題】

今年度もコロナウイルスの影響により施設に訪問しての事業はできなかったが、前年度の助成金で購入したポッチャの用具を使い事業を継続することができた。

